

(有)三宅牧場 銅賞に輝く



JA筑紫肥育牛部会の(有)三宅牧場は、太宰府市のJA全農ミートフーズ(株)で開かれた「第45回九州管内系統和牛枝肉共励会」で銅賞に輝きました。

共励会には、九州・沖縄8県から各17頭、合計136頭が出品されました。

銅賞牛「正」は父「幸紀雄」、母の父「美国桜」、母の母の父「安福久」。A5等級で脂肪交雑基準(BMS)ナンバーは12。枝肉重量は548kg、ロース芯面積107cm²。歩留まり基準値は67.4でした。

三宅牧場代表取締役の三宅静代さんは「子牛の時から能力を持っていると思っていたため、実際に証明することができて嬉しいです。これからも消費者に喜んでもらえるような肉牛づくりに精進していきます」と話しました。

「夢つくし」収穫



JA筑紫管内では「夢つくし」の収穫時期を迎え、9月7日から24日まで荷受けを行いました。

JAに出荷される水稻の作付面積は「夢つくし」「元気つくし」「ヒノヒカリ」3品種で約410ha。うち「夢つくし」の作付面積は約114haを占めています。

今年の「夢つくし」の生育は、平年より6日早い梅雨明けで、気温が高く日照時間も長かったため、おおむね順調で、品質は良好です。

JAでは、10月中旬まで収穫が行われ、3品種合計で約2,000tとなりました。

JA筑紫アネシス「敬老会」



デイサービスセンターJA筑紫アネシスは、9月17日と18日の2日間、利用者の長寿を祝い、最年長で105歳の八尋功さんをはじめ、賀寿を迎えた12名に、JAから表彰状と記念品を贈りました。

デイサービスセンターの古賀貴博所長は「いつまでも元気に毎日過ごしてください」と話しました。

地域の安全を見守る



JA筑紫各店舗では9月21～30日、福岡県の「秋の交通安全県民運動」の一環として、交通事故防止の啓発活動を行いました。

御笠支店では期間中、職員が自治会や御笠コミュニティセンター、吉木小学校、御笠郵便局、筑紫野警察署、筑紫交通安全協会などと協力して、登校する児童を見守りました。活動にはJAマスコットキャラクター「ちくしんぼー」と「ゆめっぴー」も参加。児童は元気よく挨拶をし、登校しました。

コミュニティセンターや同郵便局に交通事故防止に関するのぼり旗を、通学路周辺に同協会の青パト（青色回転灯車両）等を設置。パトカーや白バイで通学路周辺を巡回し、安全運転を呼びかけました。

また、小学校では登校してきた児童に除菌シートやマスク等を配布し、新型コロナウイルス感染拡大防止も呼びかけました。

支店の職員一同は「今後もJA筑紫安全安心みまもり活動を継続し、地域の方々の安全を見守ってまいります」と話していました。

運動は県や警察、市町村、交通安全協会などで結成する交通事故をなくす福岡県県民運動本部が主催。「子供と高齢者を始めとする歩行者の安全の確保」などを重点項目とし、同県内各地域で様々な活動を行っています。

JAはこれまでも地域の防犯活動など積極的に取り組んできました。JAが掲げる「地域の活性化」へ貢献し、地域に必要とされるJAを目指しています。

児童が稲刈り授業・JA筑紫や地域住民もサポート



太宰府市立水城西小学校は9月下旬、総合的な学習の一環として稲刈り体験学習をしました。稲刈りには5、6年生の児童約270名が参加。また、JA筑紫向佐野支店の店舗運営委員や支店職員、地域住民や保護者もサポートしました。

児童は刈り方のコツを聞きながら、黄金色に実った「夢つくし」を刈り取りました。

サポートした委員や地域住民は「この体験を通して農業や米の大切さを実感してもらえると嬉しいです」と話しました。